

ぞうふくじ せきぞうかんのん

増福寺の石像観音

(石浜)

いしはま ぞうふくじ せきぞう かんぜおんぼさつ

石浜の増福寺に石像の観世音菩薩がまつられ

ています。この石像観音には、次のような話が

つた
伝えられています。

むかし、雷様の申し子の道場法師を生んだ

ちようしろうふさい しそん だいだいしはま きたこうしんぼう す

長四郎夫妻の子孫が、代々石浜の北庚申坊に住

んでいました。その中の一人が、あるとき眼の

びようき 病氣にかかってだんだんひどくなり、やがて目

が見えなくなるばかりになりました。その人は、

「いったい、なんの因果でこのような病氣にか

かったんだらう。」

と、わが身の不幸をなげき悲しんでいました。

すると、ある晩のこと、夢の中に光り輝く

かんぜおんぼさつ あらわ
観世音菩薩が現れ、

「われは、お前の祖先の道場法師立願になる

かんぜおんぼさつ いま やしきうら うめ こぼく
観世音菩薩である。今、屋敷裏にある梅の古木

の根の下にとじこめられて難儀をしている。

われを救い出したら、お前の眼病を治してや

らう。」

と言って姿を消しました。

夢から覚めたその人が、家の人にたのんで、

裏の梅の木を調べてもらいますと、根っ子の



観音像が現れました。

「これこそ夢に現れた観音さまにちがいない。」

いちぶ 一部分が盛り
あがって、脂
の出ている
ところがあり
ました。さ
つそくそこ
を切ってみ
ますと、中
から石の



▲ せきぞうかんぜおんぼさつ 石像観世音菩薩

ひと おおよろこ ひと 喜びに喜んで、
かんぞう 観音像を洗
きよ 清め、
だいじ 大事にまつって祈りしました。その
め うちに、だんだん眼の病気がよくなってきて、
びょうき
なお やがて、すっかり治ってしまいました。
それが、いま、
ぞうふくじ 増福寺に伝わる石像観世音菩
せきぞうかんぜおんぼ さつ
さつ 薩だということです。